

オカミミガイ *Ellobium chinense* (Pfeiffer)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地内に分布する。本県ではアシ原湿地が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。健全な個体群は汐川干潟でのみ保存されている。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 3.5cm、殻径約 1.5cm で日本産オカミミガイ科としては最大種。殻は卵形で殻表は褐色の殻皮で覆われる。



汐川干潟, 2001年6月24日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)では3カ所で生息を確認し、その後新たに2カ所で生息を確認した(木村, 1999)。しかし、汐川干潟以外では生息確認個体数がそれぞれ5個体以下で絶滅が危惧される。2002年に渥美半島三河湾流入河川河口部で新たに生息地を確認したが、生息数は非常に少なかった(木村・木村, 2002)。

【世界及び国内の分布】

日本と中国南部。国内では東京湾(絶滅)以南、三浦半島(絶滅)、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海に分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

上述したようなアシ原湿地内の朽ち木や落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と連続する上部の陸上植生を保全する。

【特記事項】

本県は分布の東限である。水産資源保護協会(1997)では危急にランクされている。千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。

【引用文献】

- 木村昭一, 1999. 佐奈川河口域観察会報告. かきつばた, 25: 14-17. 名古屋貝類談話会.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.
木村昭一・木村妙子, 2002. 新堀川河口塩性湿地の貝類相. かきつばた, 28: 13-14. 名古屋貝類談話会.
水産資源保護協会, 1997. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(), 126pp.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

県内分布図

